

事業所の概要表

(令和 6年 9月 20日現在)

事業所名	グループホームさくら					
法人名	有限会社 SKR					
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高尾田1008-6					
電話番号	089-956-5358					
FAX番号	089-905-7133					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成	15 年	11 月 25 日			
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名		(男性 0 人 女性 9 人)			
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	1 名
	要介護3	2 名	要介護4	0 名	要介護5	6 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1～3年未満	2 人	3～5年未満	2 人
	5～10年未満	0 人	10年以上	7 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 1 人			
	その他 (実務者研修・初任者研修)					
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	かどた内科 中川内科 砥部病院 平田歯科					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 6 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり 1,100 円	(朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ: 円	(夕食: 円)
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	7,500 円
	・ 共益費	4,500 円
	・ 理美容代	1,000 円
	・	円

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間		
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者	☐ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員	☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民
		☐ 利用者	☒ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等
	☐ その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和6年10月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3873500676
事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏 名	山本 康正
自己評価作成日	令和6年10月10日

【事業所理念】※事業所記入 「すべてに感謝。ありがとう」を運営理念にしている。これは「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を目標として生活していく中で、大切な言葉は何かと、職員と利用者の方が一緒に話し合って決めました。	【今回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①誰が見ても、介護計画にそってどのような取り組みをし、どのようなケアが実践出来ているかわかるような記録を行う。 *計画書だけでなく、支援経過が誰でも記録できる用紙を個人の介護記録と一緒にファイルしているが、気が付いた点などは口頭で伝えられている。 ②こちらから問いかけをし、それに対して返信をもらえるような会議を開催する。 *感染対策をし、施設での運営推進会議を行う予定だったが、スタッフや地域の方にコロナ感染者が出ており書面開催となっている。地域の方は書面を記る際に、面会に来られたご家族の方には、お会いした際にお話をしている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 毎月、さくら通信(個別通信)を家族に送付して、写真付きで暮らしや身体変化などを詳細に報告している。管理者(法人代表者)は、すべての家族とSNSでつながっており、家族は、気になったことがあれば直接伝えることができる。SNSで日頃の様子や行事の写真や動画を送っている。 誕生日の利用者に、ちらし寿司やおはぎづくりが得意な利用者が職員と一緒に手づくりして、お祝している。訪問調査日はちょうど、利用者の誕生日で、他の利用者が職員とキンパ(韓国のお餅)を巻いて祝い膳をつくっていた。 この一年間では、2名の利用者の看取りを支援した事例がある。家族には、いつでも面会可能なことを伝え、家族も宿泊して一緒に看取った。
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	話しやすい雰囲気づくりに努めている。意思表示される方が少なくなっているため、気が付いたことを話し合い、ご家族様にも相談している。	◎		○	入居時には、利用者や家族の希望や意向を暮らしの情報シートの項目(食事の好み、排泄、入浴、身だしなみ等)に沿って、主に家族に記入してもらっている。日々の中で新たに得た本人の希望等は、フェイスシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入居時に記入して頂いた「暮らしの情報シート」やご家族様のお話を参考にしながら検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などに話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	暮らし方への思いは職員間で概ね共有出来ていると思う。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	意思表示される方が少なくなっているため、見落とししている可能性もある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にご家族から生活環境や趣味などを聞いており、暮らしの情報シートに記入していただいている。随時、ご利用者、ご家族からも聞いている。			○	入居時、利用者の情報を暮らしの情報シート(毎日の習慣、関心、馴染みのもの、得意な事、苦手な事、好きな音楽・テレビ、家事等の項目)に沿って主に家族に記入してもらっている。日々の中で新たに得た情報は、フェイスシートに追記しておき、介護計画見直し時期にシートの情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ご利用者との会話や表情、ご家族などの面会時に把握するように努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	延部病院で紹介された24時間単位の記録用紙を取り込み記録している。変化があれば記録し、随時申し送りを行っている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	申し送りやミーティングの中で話し合っており職員全員で情報共有している。意思疎通が困難な方が増えたので、ご家族の面会時に話し合うようにしている。			○	介護計画作成前には、職員が情報を持ち寄り、ミーティングで話し合ったり、朝の申し送り時を捉えて話し合ったりして検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	より良く暮らしていただくために、アイデアを出し合っており、職員間で情報共有している。また、ご家族の面会時に話し合うようにしている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	ご利用者の思いや意向、暮らし方をさらに把握するように努めている。				ミーティング等で話し合った内容をもとにして介護計画を作成している。さらに、家族やその他、利用者にかかわる人たちの意見やアイデアを介護計画に反映できるような取り組みに工夫を重ねてほしい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご本人の意向が分かりにくいことが多くなっているため、ご家族の方と話し合い、職員同士でアイデアを出し合っており介護計画を作成している。	○		△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ご家族と相談しながら、それまで慣れ親しんだ暮らしができるように配慮している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	ご家族や地域の方には必要時に協力していただけているようにしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で話し合い、情報共有している。必要時には、日々の申し送りの時間に話し合っている。			○	日々の記録ファイル(個別)に介護計画表、ケアプラン支援経過シートを挟み共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	支援経過記録を作成し、記録用紙とともに挟んであるが気が付いた点などは口頭で伝えられることが多い。			×	介護計画の実施内容については、口頭で話すことはあるようだが具体的な記録は行っていないため、計画にそってケアを実践できたかどうかを確認することはできない。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに見直しを行っている。			◎	主任が責任を持って期間を管理しており、6か月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のミーティングや朝の申し送りの中で、ご利用者の方一人一人の状態を話し合い確認している。			△	3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画書内の実施と評価欄に記入している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご利用者の方に変化があれば、主治医・ご家族と相談しながら介護計画を新たに作成している。			○	この一年間では、退院した利用者や看取り時期の利用者の状態変化に応じて見直しを行ったような事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	コロナが5類になったが地域の方やスタッフが感染しており、主治医からの助言もあって少人数の話し合いを元に書面開催が多い。			○	毎月、職員が集まりミーティングを行い会議記録を作成しているが、新型コロナウイルス感染症がまん延するシーズンや事業所で感染症がまん延した際には、先に、話し合いたい内容を出しておき、書面でミーティングを行っている。この一年間では6回、書面でミーティングを行った。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日々の業務中や申し送り時には職員が遠慮せず、何でも意見できるような雰囲気を作っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	地域の方やスタッフがコロナ感染しており、主治医からの助言もあって少人数の話し合いを元に書面開催が多い。開催する際は、希望休を外して夜勤明け時間に合わせて開催している。			○	ミーティングは、ほぼ全員参加で行っており、希望休のない日及び市外からの職員の夜勤明けの日を選び、9時～1時間程度行っている。欠席の職員には、会議記録を渡して口頭でも説明している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日の申し送りを確実にするために、口頭の申し送りと共に申し送りノートにも記入し、確認した職員はサインをするようにしている。	○		○	申し送りノートで伝達しており、職員は出勤時にノートを確認してサインするしきをつくっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日々の会話の中で聞くようにしているが、ご利用者から訴えがないことも多い。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつや時間など、数種類ある場合はご利用者に好きなものを選んでいただくようにしている。			○	おやつを数種類から選んでもらうような場面をつくっている。更衣時には、自分で洋服を選ぶように複数見せて「どちらにしますか？」と聞くようにしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床、就寝、食事はできるだけご利用者のペースに合わせるように努めているが、入浴・トイレ誘導などは、施設の都合で動いてしまうこともある。				
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しそうな表情を引き出せるように、ゆっくり・やさしく・おだやかに声掛けをするように努めている。			○	利用者がタオルたたみ等を自主的にしてくれるような場面がよくあり、職員は、お礼を言ったり、「またお願いします」と頼ったりしている。家事を行ってくれる利用者には、職員は、「今日はお世話になりました。」等とお礼を伝えている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	ご利用者の表情や仕草などを見ながら思いを把握するよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	人権や尊厳、プライバシーに配慮した声掛けをするようにミーティングや日々の中で話し合っている。	◎	◎	○	ミーティング時を捉えて内部研修を行っており、職員は、身体拘束及び高齢者虐待防止に関する研修の折に人権や尊厳について学んでいる。書面でミーティングを行う際には、研修資料は配布している。職員の気になる言葉かけが見受けられた時には、主任が「違う言い方ができないか」を話し合い、提案等をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ誘導や入浴時には、さりげない声掛けを心がけている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入るときにはノックをして声掛けをするようにしている。寝たきりの方の居室は、少し開けているときもある。			○	職員は、ノックしたり、「○○さんお部屋失礼しますね」等と声をかけたりしてから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職務上知りえた個人情報は外部に漏らさないように入社時に職員全員に説明して理解してもらい、誓約書に署名捺印してもらっている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	ご利用者にお手伝いをさせていただき「ありがとうございます」とお礼を言うよう笑顔がみられることが多い。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	タオルを拾ってあげたり、ティッシュを取ってあげたり等、ご利用者同士支えあっている様子を職員は見守っている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	関係の良いご利用者同士が同じテーブルにならないように配慮している。			○	座席は、利用者同士の関係性を考慮して決めている。トラブルになりそうな時には、職員が間に入って話を聞いたり、場所を移動してもらったりして見守っている。昼食後には、ソファに利用者3人が座ってテレビを見ていた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者やほかのご利用者に、心理的なダメージが残らないようにトラブル解消に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	契約時や面会時にご家族から聞き、日常会話の中からご利用者に聞くようにしている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ご本人の希望があれば自宅やなじみの場所にお連れしていたが、コロナで難しくなっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	希望者はスタッフと散歩に出たりしてるが、重度が進み、お誘いしても戸外に出たがらない方が増えてきている。	△	△	△	今春は、利用者の状態に応じて、菜の花畑(クールスモール)、花きセンターや桜(運動公園)を見に出かけたり、お寺参り(八坂寺や西林寺)等、個別に外出できるように支援した。重度の利用者が多く、季節の良い時期には、南向きのデッキでひなたぼっこをしたり、周辺を散歩したりできるよう支援しているが、外出支援は少ない。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	職員や家族と外出している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ミーティング時にご利用者の状態については具体的に職員全員で話し合っており、穏やかに過ごして頂けるようケアを行っている。				毎日、午前中に体操の時間を持っている。 家の様子が気になる利用者には、個別目標を立てて歩行練習等を支援するケースがある。 職員が洗濯物を取り込むと、「たたもうか」と言って一緒にたたんでくれるような利用者がいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	歩行不安定な方で下肢筋力の低下を遅らせるために、毎日の体操や短い距離でも介助歩行をして維持・向上が図れるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご本人ができること、やる気になっていることなどは、職員はできるだけ手を出さず見守るようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ご家族やご利用者から聞いて把握はしている。				誕生日の利用者に、ちらし寿司やおはぎづくりが得意な利用者が職員と一緒に手づくりして、お祝いしている。 訪問調査日はちょうど、利用者の誕生日で、他の利用者が職員とキンパ(韓国のお釜巻き)を巻いて祝い膳をつくっていた。 職員が雑物をする際には、針の糸通しが上手な利用者にお願している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物たたみ等をしていただき、得意なものをみて、役割としてお願いしている。	○	◎	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人の好みの洋服や色を職員で情報共有している。				利用者は、それぞれに、季節に合った清潔で似合う洋服を着て過ごした。 訪問理容(2か月に1回)を利用しており、本人が希望を伝え、鏡を見ながらカットしてもらっている。 「白髪が気になる」という利用者には、色の希望等を聞いて、職員が毛染め剤を買って来て毛染めを手伝っている。 衣類は家族が用意するが、利用者から洋服購入の希望があれば、職員が買い物の代行を支援している。 店で洋服の写真を撮って本人に見せるなど、本人が納得いくものを購入できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人好みのヘアスタイルや持ち物等を職員で共有している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい方はご家族の方の意見も取り入れつつ、一緒に話し合っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や行事に合わせた服装を着用できるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなり、口まわり、口の周囲等)	○	ご本人のプライドを傷つけないように整容の乱れや、汚れは職員が取り除いている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	以前は行きつけのお店に行かれる方がいたが、現在は希望者がいないので、定期的に訪問理容を使っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	髪型や衣類は、ご本人らしく清潔感が保てるように支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員が料理の内容や食材を説明するよう努めている。				献立は、事前にその日の調理担当の職員が決めている。職員が毎日、食材の買い物に行き、旬のもの、新鮮なものを使用している。 利用者には、力量をみながら、野菜の下ごしらえ(ごぼうのささがき、もやしのねとり、ジャガイモや里芋の皮むき)をしたり、食器を洗ったり、下膳をしたりする場面をつくっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食べたいものを聞いたり、野菜の皮むきなどをお手伝いして頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お手伝い後に「ありがとうございました。助かります。」と伝えると「いつも言う」と満足そうな笑顔がみられる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	好みやアレルギーについては、具体的に利用者ごとにまとめてキッチンに掲示している。				献立に行事食(正月におせち料理、節分には巻きずし、土用の丑の日にはうなぎ等)を採り入れている。 ハンバーグがテレビに映ったのをみて、利用者が「おいそうだね」と言って話題になり、献立に採り入れたようなことがあった。 春には、職員がつくしを採ってきて、テーブルに新聞を広げて利用者と持ち取りをして料理に使用している。また、菜の花など、栄養があり、春を感じるような食材を使用している。刺身が苦手な人には焼いたり、また、苦手な食材は、刻んでご飯に混ぜたりして、おいしく食べられるよう工夫している。
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえて、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	その時期の食材を使い、調理している。ご利用者の方との話に出てきたものを作ったりしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどろりや器の工夫等)	○	ご利用者ごとに、普通食・キザミ食・ミキサー食にしたり、とろみをつけたりと食べやすいように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は事業所で用意している。食器の重さなどを考慮して使いやすい物を用意しており、箸は滑りにくい物を用意している。			◎	入居時に「使い慣れたものを持ってきてください」とお願いしており、それぞれに、マグカップは持ち込んでいる。その他は、事業所で個々の状態に合わせて用意している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は昼食をご利用者と一緒に見守りながら食事している。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態で介助が必要なご利用者でも、食事の内容など声掛けをしながら提供している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事は一汁三菜を提供するようにしている。水分摂取量は、お汁の水分量を除いた飲料水のみで1,000mlを目標に記録している。				対面キッチンになっており、居間から、料理する様子が見えたり、においがしたりする。 左側が見え難いような利用者には、右側の方に配膳するなど、配慮して支援している。
		k	食事が少ない場合、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取に意識がむかない方にはこまめに声掛けをし、冷めたら温め直してお好みの温度に調整している。低栄養が心配な方には、たんばく補助食品の摂取を勧めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養のバランスに関しては、栄養士と相談しながら提供するように心がけている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は毎日買い物に行き、新鮮な物を提供するように心がけている。調理器具に関しても定期的に消毒し清潔を保つように心がけている。				調理方法、食事形態などは、その都度、職員同士で話し合っている。 栄養士資格を持つ職員のアドバイスなどを採り入れ、バランスのよい食事づくりに取り組んでいる。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	内部研修や日々の会話の中で職員には説明し理解している。				口腔ケア時に職員が目視して把握に取り組んでいる。 毎週、協力歯科医の往診があり、異常を発見したり、本人から訴えがあったりしたら相談している。 年に1回、歯科健診を受けて口腔内の健康管理をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	協力歯科医の定期往診があり利用者全員が受診しており、健康状態については把握している。 必要に応じて通院治療している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	協力歯科医の定期往診があり口腔ケアの方法については指導を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後に歯科医の指導をもとに、義歯の洗浄を行っており、毎日義歯洗浄剤で洗浄している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	義歯の方は毎食後洗浄し、残った歯のケアを見守るか介助している。ご自分で口腔ケアをされる方は、口腔状態をチェックするようにしている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ミーティングや内部研修の中で職員には説明している。				その都度、口頭で話し合ったり、申し送り時などを利用して検討したりしている。 尿量などに応じてパッドサイズを替えて支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	ミーティングや内部研修の中で職員には説明し理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄パターンを記録分析しミーティングや申し送りのなかで話し合いトイレ誘導するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	ご利用者の方一人一人にあった紙パンツ、パッドを使用して使用方法を工夫している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食物繊維の多い食品を提供したり、水分摂取量の増加、体操などの運動、腹部マッサージなどを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを記録し、早めにトイレ誘導できるように心がけている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	ご家族様と相談して対応している。ご利用者の方によっては好みのものを使用しているが、ほとんどは職員が選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ご利用者の状態に合わせて対応するように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食品を提供したり、水分摂取量の増加、腹部マッサージなどを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴はほとんど午前中に実施している。(木曜日は往診のため休み)回数、温度などはご利用者の方の希望に合わせている。	◎		○	週2回、午前中の中入浴を支援している。湯温や長さは、利用者の希望を踏まえて準備している。 時には、入浴剤を使用している。 湯舟で温まる際、歌の好きな利用者は、「いい湯だな」を職員と一緒に歌っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	ご利用者の希望にそえるようにしているが、意思疎通のできない方が増えてきている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自分で洗えるところは洗っていただき、浴槽への出入りも職員が見守りながらできるだけ行っていたい。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴拒否される方に対してはタイミングをみて声掛けしたり、職員が交代して声掛けを工夫して入浴して頂けるように支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタルサインや顔色、表情を確認しながら入浴の可否を決定している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録を活用し、睡眠パターンを把握している。				現在、睡眠導入剤や安定剤を使用している人はいない。 日頃から、天気の良い日には、布団を干したり、シーツや枕カバーや枕を洗ったりしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないように日中はできるだけ臥床時間を少なくし体操などで身体を動かし夜間眠れるように支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間休まれるように落ち着く声掛けや内容など、職員間で話し合い実施している。必要な場合は主治医の先生に相談し眠剤を処方して頂いている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室で昼寝されたり、リビングソファで休まれたり、ご利用者はそれぞれくつろがれている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご利用者が希望される時にはホームの電話を利用して家族、友人に連絡していただいており、携帯電話を所持している方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	「年賀状の返事は書けん」と言われた方にはお電話を通じてお話しして頂いている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば電話の利用はいつでも可能。携帯電話を所持されている方がおり、自由に電話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙などは居室のわかりやすい場所に置き、いつでも見られるようにしている。返信を希望される方は支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話を掛けることについてはご家族等に理解、協力をしていたいただいているが、お手紙をもらえるようお願いはしていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご利用者の方がお金を所持して、欲しい物を自ら買うという喜びを職員は理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先にスタッフの知り合いもあり、理解や協力をしていたいただいている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	ご本人で金銭管理できる方にはご家族様と相談してお金を所持されている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人で金銭管理できる方にはご家族様と相談してお金を所持されており、使い方もその都度相談している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月の請求書の発送時にその月の小遣い利用明細、残高を報告している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	面会時にご家族の状況や要望などを聞くように努めている。	◎		○	家族からの依頼で病院受診の付き添いをするケースがある。 マイナバーカードをつくる際に、手伝いをしたケースがある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽にホームに入りやすいようにしている。	◎	◎	○	玄関前に駐車場があり、スロープを設置している。 玄関の横にウッドデッキがあり、時々、ひなたぼっこをしている。建物の側面にある花壇には、バラやあじさい、多肉植物を植えていた。 玄関の靴箱の上には、金木犀を育てていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を保てるように努めている。	◎	◎	○	居間には、大型テレビを設置しており、テレビの正面にソファを置いている。 居間の一角に畳の間がある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除もこまめに行っており、においや汚れには配慮している。			○	掃除が行き届き、気になる臭いや音は感じなかった。 椅子に足カバーを履かせて消音対策をしていた。 居間は、南側の窓から採光があり明るい。 レースカーテンで光を調整していた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感のある花や調度品を配置し心地よく過ごせるように努めている。			○	居間のテレビの下には、ぬいぐるみや人形を飾っている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方同士はリビングなどで心地よく過ごされている様子。一人で落ち着いて過ごされる場所ではご利用者の方によって違うが、リビングにいる方が多い。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室になじみの家具やご家族の写真などを持ち込んでいただいている。	◎		○	家族の写真を飾っていたり、タンスの上に化粧品を置いていたりする居室がみられた。散らかっている時は、一緒に片づけるようにしている。欲しいものを書けるように、ベッドの枕元にメモを置いている人がいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室入口には表札を掲げている。トイレの場所もわかりやすいように「トイレ」と掲示している。			○	トイレの入り口には、「トイレ」と書いた紙を貼っていた。 玄関に、椅子を置いており、座って靴が履けるようにしていた。
		b	利用者の活動意欲を醸発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	なじみの物は居室のいつでも手に取れる場所に置かれているが、手に取ってみている方はほとんど見られない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけた出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	施錠をしないように努めている。外出したいご利用者の方は、天候にもよるが職員が同行し納得して頂けるように心がけている。夜間は施錠をしている。	◎	◎	◎	日中は、玄関に鍵をかけていない。 「家に帰りたい」と外に出るような利用者には、職員が付き添っている。 身体拘束及び高齢者虐待防止に関する内部研修時には、事例を挙げて説明している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関は開くとセンサーが鳴るようにしており、施錠をしないように努めている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	主治医と連携して看護師と相談しながら把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタルサインチェックや顔色などを観察しながら記録している。異常があればすぐに日勤者に報告となっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	毎日のバイタルサインチェックや顔色などを観察しながら記録している。異常があればホームの看護師に最初に連絡し必要に応じて主治医に報告して支持を仰いでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居までの診察状況を考慮し主治医はご家族の希望に応じている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人、ご家族と相談しながら適切な医療が受けられるよう支持している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の仕方はご家族と相談しながら行っている。受診結果の報告などは毎月の便りや緊急を要する場合は電話やメールで行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	ご本人の最近の様子や生活習慣などの情報提供を行っている。医療面の情報提供は主治医に任せている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、関係医療機関と連携しご家族と相談しながら早期退院できるように支援している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	毎日のバイタルサインチェックや顔色などを観察しながら記録している。異常があればホームの看護師に最初に連絡し必要に応じて主治医に報告して支持を仰いでいる。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師、主治医に24時間連絡体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタルサインや日常の顔色の変化などを観察しながら、異常があればホームの看護師に最初に連絡し、必要に応じて主治医に報告して支持を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新たな薬が追加された時は、ご家族と主治医に経過報告を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は毎回職員が手渡し服薬確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬による状態の変化に気付いたときには、看護師に報告して、必要に応じて主治医からの指示を受けている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に重度化した場合のあり方や、終末期、看取りの話をしている。ご利用者の状態に変わりがおきればその都度話し合うようにしている。				入居時に看取り支援の内容を説明している。状態変化時には職員、家族、主治医と話し合い、情報や方針を共有している。この一年間では、2名の利用者の看取りを支援した事例がある。家族には、いつでも面会可能なことを伝え、家族も宿泊して一緒に看取った。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合のあり方や、終末期、看取りについて、ご家族等・職員・協力医療機関等関係者で話し合い方針を共有している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	重度化した時には職員の思いを個別に聞くようにしている。職員の思いやご家族の思いを考慮してどこまでの支援ができるかを見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りは行いが、病院ではないので医療行為はできないと説明し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族、主治医と十分に話し合いを持ち連携を取りながらチームケアで取り組む体制は整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご利用者が重度化した時には状態の変化をこまめに電話で連絡している。仕事の事情などで電話が取れないご家族に対してはSNSやメールで報告している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ミーティングや内部研修の中で職員には周知している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを作って対応ができるようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	最新情報などは、保健所や行政等のインターネットから取り入れている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関には手指消毒できるようにしている。インフルエンザ予防接種は毎年全利用者全職員に実施している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともしに、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族にはご利用者のできること失敗したこと、怒ったことなど何でも報告・相談している。				面会時を捉えて、秋祭りへの参加の案内をして1家族の参加があった。 毎月、さくら通信(個別通信)を送付して、写真付きで暮らしぶりや身体変化などを詳細に報告している。SNSで日頃の様子や行事の写真や動画を送っている。看取り支援中は、頻繁に状況を報告している。 すべての家族に運営推進会議の報告書を送付して、行事や職員の入れ替わり等を知らせている。改修工事を行った際には、終了後に報告を行った。 管理者(法人代表者)は、すべての家族とSNSでつながっており、家族は、気になったことがあれば直接伝えることができる。入居間もない利用者の家族には、本人の様子を動画に撮って送っている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	ご家族とご利用者は外出されているが、ホームでの活動は大人数になるためコロナ過で休止中である。	△		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。('たより'の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ご家族には、毎月送る写真入りのさくら便りにその月のご利用者の様子をできるだけ詳細に報告している。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時などの話や、接し方などから関係を見極め支持するようにしている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	改修工事など、事業の運営上の都合については、面会時や毎月のさくら便りで報告している。	○		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスクについてはご家族と面会時等に対応策を話し合っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族の意見や希望は、電話、SNS、面会時に聞けるように対応している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には説明をしている。変更時には文章を送付している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の条件は契約書に明記している。退居理由のほとんどが医療機関への入院で、ご家族・主治医と十分に話し合ったうえで退居先に移れるように支援している。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立当時からお世話になっている方には事業所の目的について説明をしている。		◎		事業所の前にある他法人施設の運営推進会議に管理者が参加している。 散歩をしたり、花壇の手入れをしたりする際には、出会う人に挨拶をしている。近所の人が野菜を差し入れてくれることがある。 秋祭りには、大人神輿と子ども神輿がきて見物した。子どもたちには、お菓子を配った。 管理者(法人代表者)は、ゴミステーションや周辺の掃除を行っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方には散歩や水やりでの挨拶を通じて交流がある。地域のおまつりでは利用者様にお菓子配りをして頂いた。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	以前には、利用者の方が職員に何も言わずに外出されたときに近隣住民の方が教えてくださったことがある。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ過となり、気軽に立ち寄られる方はいなくなった。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	洗濯物干しや花の水やりの時などにお付き合いをしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ過からボランティアの方と行事等を行うことが難しくなった。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	砥部町内の理美容店様に訪問散髪をいただいている。隣接する高尾田あったか広場様のイベントに利用者様と参加予定だったが中止となった。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ過により、利用者のご家族、民生委員、隣接の高尾田あったか広場の職員、地域の方、町会議員などに書面を持って行き、その場でお話をしている。12月からホームで開催予定。	○		×	会議報告書を会議メンバーに配布することに止まっているため、会議開催には至っていない。 会議報告書で利用者、職員、活動状況を報告している。外部評価実施後は、評価結果の抜粋したものと目標達成計画、アンケート結果を添付して報告をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	書面開催となり個々での報告になっている。意見や提案等を活かした結果報告にはなっていない。		○	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ過により書面開催となり、封筒を手渡しで配っている。		○		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「すべてに感謝。ありがとう」を運営理念にしている。全ての職員で理念を共有し、日々のケアで実践している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ご家族にはパンフレットに基づいて説明している。地域の方にも今までに運営推進会議の中で説明している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	申し送りノートに研修案内のファイルを挟み、外部研修を呼び掛けている。				代表者(管理者)は、毎日ケアの現場にいて、職員とともにケアに取り組み、いつでも、話しやすい雰囲気をつくっている。 職員は、希望休みを出せるようになってきている。 休憩時間は、分割して一時間を確保できるようにしている。 職員がコーヒーを自由に飲めるようにしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	管理者は職員の入社時に十分な実習を行い職務に就けるようにしている。また実務を行いながら気が付いたことは指導するようにしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者、管理者は職員の勤務状況を把握しており、働きぶりの評価を給与に反映している。また、個人面談を行い具体的な意見を聞きやりがいのある職場環境の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	近隣の施設、病院などと交流を持ちネットワークづくりに努めている。また、隣接する小規模多機能事業所の運営推進会議に主席して意見交換をしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員にストレスがかからないような勤務体制を組むようにしている。重度の要介護者には2人で介助するようにしている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	ミーティングや内部研修の中で職員には周知している。			○	身体拘束及び高齢者虐待防止に関する内部研修で学んでいる。 職員は不適切なケアを発見した場合、管理者(法人代表者)、主任、看護師職員に報告することとなっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日の申し送り時に話し合うようにしている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とコミュニケーションをとる機会を多くして意見を聞くようにしている。個人面談も行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止委員会の中で説明をしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会の中で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	拘束のないケアに取り組んでいる。玄関はできる限り施設せずに、自由な生活をして頂けるようにお話をしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	これまでに必要な方はいないが、砥部町主催の成年後見人制度の研修に参加している。相談は未だない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	これまでに必要な方はいないが、砥部町主催の成年後見人制度の研修に参加している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを製作しいつでも見られるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師から説明を受けて職員が実際に処置することはあるが、定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ミーティングや日々の申し送りの中で話し合って再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングや申し送りの中で話し合って事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルはあるが、担当窓口があり職員全体は理解していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ご家族には面会時などに日常生活の中での要望や不安なことを聞くようにしているが、これまでに苦情が寄せられたことはない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ご家族には面会時などに相談された日常生活での要望や不安点などについて、職員間で話し合い速やかに対応するようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	ご利用者からは井戸端会議でご本人から聞くようにしている。ご家族からは面会時に要望はないかお尋ねしている。	○		○	利用者には、日々の中で聞いている。利用者からよく言ってくれる。 家族には、面会時に聞いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情相談窓口を設けており掲示している。また契約時には苦情相談窓口について説明している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は勤務の中に入っており、職員の意見を直接聞く機会が多い。				管理者(代表者)は勤務のシフトに入っており、日々の中で聞いている。
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティング内でご利用者一人一人について職員から意見を聞くようにしている。個人面談も行い利用者本位の支援をできるように話し合っている。			○	業務の見直し、改善への意見や提案を書く用紙「さくらの何でも言って委員会」を申し送りノートに挿んでおり、職員は無記名で意見等を書いてボックスに入れるようなくみをつくっているが、口頭で済ませることがほとんどで、利用はほほないようだ。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	代表者、職員で年1回取り組んでいる。				
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成にむけて取り組んでいるが、運営推進会議の開催には至っておらず個々に報告している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	結果報告はしているが、モニターをしてもらう取り組みは行っていない。	△	○	△	外部評価実施後の運営推進会議報告書に、評価結果の抜粋したものと目標達成計画、アンケート結果を添付して報告をしている。 モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	ミーティングや運営推進会議内で取り組みについて確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	地震、風水害、火災のマニュアルは作成している。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練は夜間想定と昼間想定で行っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備(火災自動通報装置、スプリンクラー)は定期点検してる。避難経路、物品については管理者が点検確認している。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	隣接のあったか広場様や近隣住民の方にいざという時の協力をお願いしてる。	△	○	△	年2回(3月と10月)、消防署の立会いのもと、利用者と職員で火災想定避難訓練を行っている。 管理者(代表者)は、隣接他法人施設の避難訓練に参加した。 さらに、地域との協力支援体制を具体的にすすめてほしい。また、家族アンケート結果をもとにした取り組みについても工夫してほしい。
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	隣接のあったか広場様の避難訓練に参加して避難誘導の手伝いをしてる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の中で介護技術や認知症の方の日々のケアについて勉強を行ったことはあるが、発信はしていない。				
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	入居の相談はあるが、生活に関する相談は今のところない。		○	×	入居相談で来訪する人の介護相談を受けることはあるが、今後は、地域のケア拠点として相談支援の取り組みに工夫してみたい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	歌や、踊りなどボランティアの訪問はあったが、サロンとして交流の場所には今のところない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	依頼がない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	代表者が他の事業所、医療、福祉機関などを訪問して連携を密に取るように努めている。			△	関係機関と連携を図っているが、今後は、事業所の専門性や有用性を活かして、地域活動を協働で行う取り組みなどについてもすすめてみてはどうか。